

団地再生により創出された交流スペースの利用実態 ～洋光台団地を事例として～

浅野友花

建設から月日が経った団地の多くは建物の老朽化や少子高齢化、空き家、コミュニティの衰退、近隣施設の衰退などの問題を抱えており、団地の再整備や再生が各地で行われている。

本研究は、神奈川県横浜市磯子区にある洋光台団地で行われた団地の未来プロジェクトに着目し、団地再生前に描いていた団地になっているのかを団地内の交流スペースの利用状況から明らかにすることを目的としている。

観察による利用実態調査を行った結果、芝生広場やサンクンガーデン、団地のカフェ・団地のライブラリー、中央団地中央広場の全ての交流スペースにおいてイベント時以外の利用者が少なく、団地再生の効果は一時的なものとみられることが明らかになった。しかし、交流スペースの整備により創出された誰でも利用可能なカフェや広場は人々の憩いの場や溜まり場となっていることから、このような利用したくなる集まりやすい空間が団地の抱える問題解消の糸口に繋がっていくと考察した。